

# 平成19年度京都府地域力再生プロジェクト 気づきシート集計結果の概要

●9割を超える団体が、地域力再生プロジェクト事業の実施により、「課題の解決に近づいた」「団体のメリットになったと実感」と回答

＜交付決定団体数325 回答団体数223 回収率68.6%＞

## ＜集計結果＞

### ■地域力再生プロジェクト参加以前と以後について

質問項目		件数	割合
1	事業の実施により課題の解決に近づいたか。	近づいた	204 94.0%
		変化なし	13 6.0%
		遠ざかった	0 0.0%
		計	217 100.0%
2	実施された事業のやり方で予想されていた効果はあったか。	予想以上	77 36.2%
		予想通り	126 59.2%
		予想以下	10 4.7%
		計	213 100.0%
3	事業の企画に参加した住民や趣旨に賛同する人は増えたか。	増えた	193 88.9%
		変化なし	23 10.6%
		減った	1 0.5%
		計	217 100.0%
4	他団体とのネットワークや協働の機会は増えたか。	増えた	141 65.0%
		変化なし	76 35.0%
		減った	0 0.0%
		計	217 100.0%
5	ネットワークや協働の機会が増えた行政機関	京都府	94 39.0%
		市町村	126 52.3%
		なし	21 8.7%
		計	241 100.0%
6	活動によって「地域住民相互」のつながりは深まったか。	深まった	100 46.5%
		何らかの変化あり	107 49.8%
		変化なし	8 3.7%
		計	215 100.0%
7	活動に参加された方は十分に満足を得ることができたか。	できた	168 78.9%
		わからない	43 20.2%
		できなかった	2 0.9%
		計	213 100.0%
8	活動を実施したことで団体のメリットとなったと実感できたか。	できた	197 91.6%
		わからない	17 7.9%
		できなかった	1 0.5%
		計	215 100.0%

※無回答があり、回答団体数と一致せず(以下同じ)

●「増えた」場合の具体的団体

団体名	件数
NPO	47
大学	31
企業	27
商店街	17

上記以外の主なその他の団体

小中学校、PTA、自治会、ボランティア団体、社協等

※重複回答あり

### ■地域力再生活動の実施によるエピソード

個々の団体の具体的取組を通じて、今年度の事業成果や反省点を振り返っていただいた。「他団体との交流が進んだ」「地域住民の理解が深まった」「予想以上の参加者があった」など、総じて事業実施のメリットを強調される団体が多かった。

### ■地域力再生プロジェクトへの意見、提言、アドバイス等

「地域団体にとってありがたい制度」という評価が多かった反面、資金繰りが苦しいことから「交付金の概算払い制度の実施」を提言される団体が多数あった(27団体)。その他、「補助率の引き上げ」「補助対象経費の拡大」など交付金への要望が多くみられた。

## 寄せられたエピソード、意見・提言の内容(抜粋)

### ■地域力再生活動の実施によるエピソード

- 何度もいきづまりそうになったが、その度に、何らかの救いの人や団体が現れた。
- 若者とお年寄りの交流が活発になり、双方にとってよりよい成長がみられた。
- イベント終了後も問い合わせや出会いの機会に多く恵まれた。
- 地域の大きなPRができた(新聞等5回以上)。また、活動が単発的に終わらずH20年度以降継続的なものになる可能性が生まれた。
- 思わぬ協力(寄付金・人材)が得られた。任意の団体が、事業を実現させたことで、他の事業を企画されていた団体の心理的ハードルを下げた。
- われわれボランティア団体に対して、地域の人たちがそれまでより好意的に接してくるようになった。
- コラボカフェに参加し、他分野との活動が広がった。スタッフを応援する「地域力活性隊、コロぼっくる」をつくった。
- 350人以上の小学生に環境に関連する実験を体験させることができた。
- 行政の方と話がしやすくなった。
- 多くの新住民が事業に参加するようになった。また、新住民が検討会にも参加するようになった。
- 自らが立ち上がる自覚が芽生えた。地域の隠れた力がよみがえった。府職員の関与が予想以上の効果をもたらし、京都府への見方が完全に変わった。
- 地域の良さに感動して居住したい家族が現れ、また大阪市内に和木町(綾部市)の応援団が結成された。交付金を活用し、再生活活性化への意欲、熱意が住民に溢れてきた。
- 住民ディレクターにより配信される映像は当初の予想をはるかに越えて100タイトルになっている。先日アメリカからの問い合わせがあり反響の大きさに驚いている。
- 300人の参加を予想していたが、1500人が参加で驚いている。学生の協力が大きな力を発揮。
- 当法人の活動目的が知られるようになった。京都市内の団体や大学が本事業に刺激を受けて趣旨を同じくするインストラクター養成講座を開講された。
- 活動は広がりを見せて、参加する会員も大幅に増加した。
- 校区内の他団体においても、独自に植栽を行うなどの協力を得られた。里山への関心が高まった。
- イベントで実施した「大しめ縄づくり」は各地域でも再び実施されるなど、今後が楽しみな活動となった。
- 地域住民と一緒に防犯パトロール等実施した結果、犯罪発生が大幅に減少した。
- 長年中断していた活動が再開できた。地域通貨の発行を始められた。地域の人や環境に関心のある人との出会いなど、つながりが広がった。

### ■地域力再生プロジェクトへの意見、提言、アドバイス等

- 「団体の構成員等に対する講師謝金や旅費」は対象外経費から除外していただきたい。助成金の一部前払いや、中間での支払いも検討して欲しい。資金繰りが大変。
- コミュニティビジネスの収支計算(収入算定)は再考して欲しい。
- リーダー育成のために市外でのセミナー参加費、旅費も認められると助かる。
- 各教室を継続していくためには、地元指導員の育成が不可欠。単にボランティアという訳にはいかず、少しでも指導者謝金が払えればと思う。
- 今年の事業などを例に、サンプルシート等いくつか紹介していただくと、他の団体にも分かりやすい。
- 将来性のあるモデルケースには、育てていく姿勢をもっていただければと思う。
- 住民パワーが試される時代となった。プロジェクトのおかげで市町村の職員が目が住民に向くようになってきたと感じている。私たちは行政を待つのではなく、行政に発信をして住民自ら協働の気持ちでの働きかけが必要と感じている。